

「第4回アジア防災閣僚級会議」に参加して

内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（災害予防担当）付

萱嶋 聖志

1 はじめに

2010年10月26日から28日の間、韓国の仁川において、韓国政府及び国際連合国際防災戦略（UNISDR）が主催して「第4回アジア防災閣僚級会議」が開催されました。日本政府からは、東祥三内閣府副大臣（防災担当）を団長に代表団が参加し、私もその一員として同会議に参加する機会をいただきましたので、会議の概要などをここに紹介させていただきます。

2 アジア防災閣僚級会議

アジア防災閣僚級会議は、2005年1月、我が国の提案により兵庫県神戸市において開催された国連防災世界会議において採択された、国際社会における今後10年間の防災活動の指針となる「兵庫行動枠組2005-2015（HFA）」について、アジア各国での実施状況や推進方策について議論するとともに、アジアにおける災害被害の軽減のための取組の成果と課題を総括するものです。

これまで、2005年の9月に第1回の会議が中国の北京で開催され、その後、2007年11月にインドのデリーで第2回会議が、2008年12月にマレーシアのクアラルンプールで第3回会議が開催されています。

第4回となる今回の会議には、アジア太平洋各国の閣僚級をはじめ53か国の政府関係者、国際機関、地域機関及びNGO等から約800名が参加しました。



各国代表による集合写真（東祥三副大臣：前列左から3人目）

3 会議の構成

今回の会議では、「気候変動適応を通じた災害リスク低減」を会議全体のテーマとして、「気候変動と防災に関する意識啓発と能力開発」、「気候及び災害リスク管理に関する情報、技術、優良事例、教訓の共有」、「気候変動適応策と防災対策での環境配慮の促進」という三つの議題について、ハイレベル・ラウンドテーブルでの参加各国閣僚級による公式ステートメント、テクニカル・セッションでの専門家による議論そして、各国閣僚級に専門家が加わったの全体会議がそれぞれ行われました。

第4回アジア防災閣僚級会議（会議日程）	
10/26(火)午前：開会式	
午後：議題1 「気候変動と防災に関する意識啓発と能力開発」	
ハイレベル・ラウンドテーブル ・閣僚級による公式ステートメント	専門家による テクニカル・セッション
全体会議（プレナリー）	
10/27(水)午前：議題2 「気候及び災害リスク管理に関する情報、技術、優良事例、教訓の共有」	
午後：議題3 「気候変動適応策と防災対策での環境配慮の促進」	
10/28(木)午前：仁川宣言の採択 開会式	

4 東祥三内閣府副大臣（防災担当）による公式ステートメント

東副大臣は、議題1の「気候変動と防災に関する意識啓発と能力開発」のハイレベル・ラウンドテーブルにおいて、主催者であるパク・ヨンス韓国消防防災庁長とともに共同議長を務めるとともに、日本政府を代表して公式ステート



ハイレベル・ラウンドテーブルで議長を務める東祥三副大臣

メントを行いました。

公式ステートメントでは、気候変動の影響とも考えられる、近年の豪雨の発生頻度増加といった新たな問題についての国内の議論や、「防災の日」に実施されている防災訓練、防災ポスターコンクールといった多彩な意識啓発や能力開発に資する我が国での活動を紹介しました。防災教育については、具体的な教材の一例として阪神・淡路大震災の教訓や体験をまとめた「幸せ運ぼう」を参加閣僚に配布し、今後各国での取組の参考にして欲しい旨述べました。

また、我が国の国際防災協力についても、我が国の知識や技術を共有するため、ODAを活用しつつ、UNISDRやアジア防災センターとも密接に連携し積極的に推進している旨発言しました。

特に、今年度、内閣府がアジア防災センターを通じて実施している日本の知識を各国へ移転する事業を紹介するとともに、来年度実施を計画している地域での防災情報ネットワーク強化のための国際セミナー開催を提案しました。

なお、東副大臣は、この「第4回アジア防災閣僚級会議」への参加の機会を捉え、パク・ヨンス韓国消防防災庁長やマーガレッタ・ワルストローム国連事務総長特別代表（防災）と個別に会談し、今後の防災分野での協力や兵庫行動枠組の推進方策について話し合いました。

5 おわりに

会議は、最終日の28日、2日間の議論の成果を踏まえ、「気候変動と防災に関する意識啓発と能力開発」、「気候及び災害リスク管理に関する情報、技術、優良事例、教訓の共有」、「気候変動適応策と防災対策での環境配慮の促進」の実施とともに、兵庫行動枠組のさらなる推進や、防災と気候変動に関する投資を、様々な防災関係者に対し呼びか



パク・ヨンス韓国消防防災庁長との二国間会談

ける「インチョン宣言」を採択して閉幕しました。なお、次回の第5回会議については、2004年12月に発生したスマトラ沖大地震及びインド洋津波で13万人を超える方々が亡くなる等大きな被害を受けたインドネシアで2012年に開催することが合意されました。

今回の会議に参加させていただき、各国代表のステートメントや議論を聞いて、各国ともに防災分野での取組がかなり進んでいることが感じられましたが、同時に中央政府レベルでは当然と思われていることもなかなかコミュニティレベルまでは届かないことも多く、改めて、コミュニティレベルでの防災力強化の重要性を感じました。また、今回の会議では、専ら気候変動と防災ということに焦点が当てられていましたが、同様に地震等の地象災害に対する防災対策の重要性についても、呼びかけていくことが重要ではないと感じました。

兵庫行動枠組の中間年にあたる2010年より、UNISDRによる兵庫行動枠組中間レビュー等、兵庫行動枠組の更なる推進に向けた様々な取組が行われています。内閣府としても、前述のとおり、HFAのさらなる推進に向けた取組支援を行っていくこととしています。

— 「第10回日韓防災会議」を開催 —

アジア防災閣僚級会議開会の前日、2010年10月25日(月)、第10回日韓防災会議が日本政府の長谷川彰一内閣府大臣官房審議官（防災担当）、韓国政府のカン・ビョンファ消防防災庁防災管理局長をそれぞれ団長に開催されました。この、日韓防災会議は、1998年10月の日韓首脳会談で開催が合意されたもので、「両国の災害への対応に関連する制度、防災体制及び施設についての情報・意見交換を通じ、防災対策の協力を推進していく」ことを目的とし、1999年1月の東京での第1回会合以降これまで9回開催されてきたものです。

今回の第10回会議では、日本側より、現在の防災活動において重要性を増している「災害被害の軽減に向けた市民の取組等について」、及び、8月に適用条件の変更など大きな制度改正のあった「被災者生活再建支援制度について」を発表し、また、韓国側からは、「気候変化に伴う都市防災性能

の目標設定及び運営」及び「災害復興のための一括交付金制度」について発表があり、意見交換を実施しました。

今回の議論を通じて、共通する多くの自然災害を抱える両国の防災担当者が、お互いの施策、経験、情報を共有し、それぞれの国の防災体制の強化に役立てていることは非常に有意義なことが再確認されるとともに、来年度第11回会合を日本で開催することが合意されました。

